

大学（地域外）から
みたRMO運営

大学との共創関係の構築がうまい

- 大学からの視察受け入れがうまい
→ある程度大学側の要望に沿いながらもパッケージ化された行程

複数のキラコンテンツの組み合わせで視察満足度が高い



立梅用水の紙芝居



6次産業化施設ゆめ工房



スマート水管理機器

※大学の視察に限った話ではありません。

大学との共創関係の構築がうまい

- 大学紹介のボランティアから自主的なボランティアへの移行がうまい

2年生のときのボランティア



4年生で勢和農村RMOのプロジェクトリーダー？！



- 地元が近い、趣味が合う、学生の意識が高い、などの背景があるものの、どういう声掛けをしているのか？
- 学生ボランティアのときに足かせになる「交通費」「保険」などはどのようにしているのか？

大学との共創関係の構築がうまい

- 大学研究のフィールドとして断られたことがない



- 水路コンクリートへの固定を含む機器設置
- 水路壁面への塗装
- 多少の落ち葉などがかかっているときの管理
- 研究作業時の同行
- 地域の方へのヒアリング
- 中学校へのアンケート

**RMO事務局が調整していただけるおかげで、
研究テーマがあればフィールドとしては最高**

外部資金獲得がうまい

- ・省庁関係の補助金を獲得するためのチーム作りがうまい

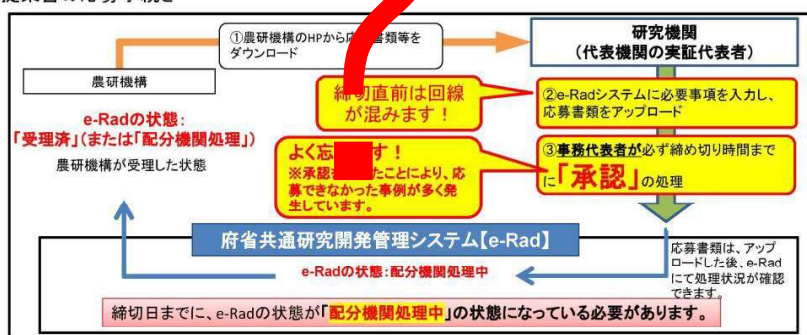
例) スマート農業実証事業

「府省共通研究開発管理システム(e-Rad)」による応募手順

○研究機関の登録申請手続き(応募までの事前準備)



○提案書の応募手続き



申請書・報告書ライター、とりまとめ、進行管理

建設コンサルタンツ

関係機関への資金配分、知的財産管理

代表機関・三重大学

※大学の研究者ではなく、大学事務

大型補助金獲得はチームを組める
関係づくりができているのが重要

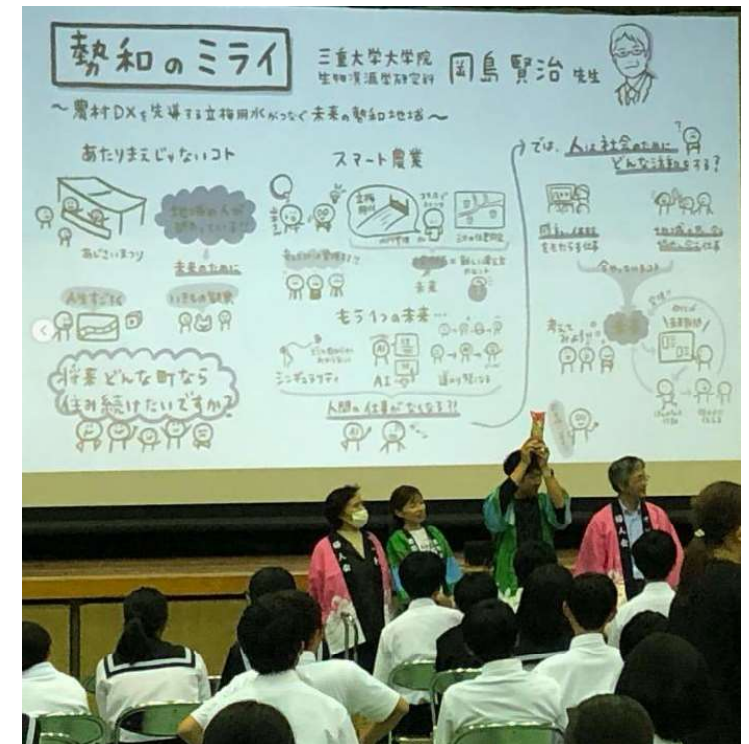
⇒ 農林水産省の情報通信環境整備対策事業は
「農業農村情報通信環境整備準備会」でコンサルが加入。
業務ではなく、気軽に補助金申請のチームとなれる
地域のサポートができるコンサルとの共創関係ができれば!

ワークショップがうまい

グラフィック・ファシリテーション技術をうまく使っている

ワークショップで陥りがちな

『何を言っている』より『だれが言った』を
回避する技術として、
関心をグラフィック（絵）に向けることで
『何を』の議論ができる！



外から見た勢和農村RMOの課題

- 多様な組織のわりに、コアメンバーが少ない？
→ 地道なリーダー探しが必要
- RMOは他省庁横断の事業にも関わらず、国・県からのサポートが縦割りの？
→ RMO運営組織は、省庁縦割りなどは関係なく活動しているので自走化のための補助金・助成金情報は、農林水産省系以外のRMO関係省庁、それだけでなく、環境省など他省庁、さらに民間助成金まで可能性のあるものを紹介すべき
ここで、産官学でのチーム作りまでサポートがあると全然違う。
RMO支援が3年と短い期間での自走化を目指すならサポートも本気で行わなければ、組織維持が難しい。